

平成 28 年度 総会・特別講演会の報告

1. はじめに

北方海域技術研究委員会では、2016年(平成28年)5月27日に平成28年度の総会・特別講演会を札幌市のホテルポールスター札幌にて開催しました。今回は59名(うち日本技術士会会員：26名)の参加を得、当会の河合幹事の司会により進められました。

なお、今年度の特別講演会は、当研究委員会の初代代表を務められ、今年3月に東海大学教授を退官された谷野賢二氏をお招きし、当研究委員会のこれまでの歩みを振り返りながら、今後の展望について議論する場として開催いたしました。

2. 総会

総会は、北原幹事を議長として選出し、「議案1：平成27年度 事業・収支状況報告」、「議案2：平成28年度 役員変更」、「議案3：平成28年度 事業計画・予算案」について議案別に討議され、すべての議案について承認されました。

ここでは、役員変更と今年度の活動計画についてご報告します。

(1) 役員の変更

表-1に平成28年度役員一覧を示します。役員の変更は、3名の幹事退任を受けて、新たに3名の幹事が加わりました。

(2) 平成28年度の活動計画

当研究委員会は、「北海道周辺の海洋環境変化とそれによる沿岸社会へのインパクト」を研究テーマとして、平成27年度から「地球気候変動によってどのような変化が顕在化するか(海水温、海面、極限現象等)」、「それによって海岸・港湾・漁港の災害リスクはどう変わるか」、「水産有用魚種(捕獲漁業、養殖)にはどのような影響が出るか」を主題として取

表-1 平成28年度 役員一覧(敬称略)

代表	若林 隆司	留任
副代表	飯田 誠	//
	大橋 正臣	//
幹事長	橋本 孝治	//
幹事	北原 繁志	//
	山口 幹人	//
	河合 孝治	//
	北川 紀洋	//
	土井 善和	//
	井上 真仁	新任
	峰 寛明	//
	松本 英明	//

り組んでおります。

本年度も計4回の講演会の開催(8月時点で2回の講演会は終了)を中心に、会員ならび一般参加者との意見交歓を活発にしながら、活動を進めて参ります。

3. 特別講演会

今回の特別講演会では、講演1「寒地土木研究所水産土木チームの研究について」と講演2「私の水産工学」の2件について講演をいただきました。以下にその内容をご報告します。

(1) 講演1「寒地土木研究所

水産土木チームの研究について」

(国研)土木研究所 寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ 研究員、当研究委員会 副代表の大橋正臣氏からご講演を頂きました。

ご講演は、当研究委員会の取り組みと非常に関係深い寒地土木研究所水産土木チームの「これまでの研究概要について」と「今後の研究課題について」ご

講演頂きました。

これまでの研究概要については、開発土木研究所時代から現在に至る歴史を含めお話しいただき、講演2の講師でもある谷野賢二氏が同研究所に勤務されていたときの振動流水槽を用いたウニ等の流れと行動パターンに関する研究成果をご説明された。

また、今後の研究課題については、「寒冷沿岸施設における水産生物の保護育成機能強化に関する研究」、「北方海域の水産資源動態に対応した生産性向上技術に関する研究」及び「漁港港湾の静穏域を活用した栽培漁業支援技術に関する研究」等についてご説明頂きました。

(2) 講演2「私の水産工学」

元東海大学教授で、当研究委員会の初代代表を務められた谷野賢二氏からご講演を頂きました。

ご講演は、「私にとっての水産工学とは何だったんだろうか」「何に向き合ってきたんだろうか」と言った視点から、技術者として信念や心構えにも触れながら、氏自らが取り組んできた研究について、ご講演頂きました。

氏からはまず、水産協調型構造物等の設計を例に挙げ、海洋構造物と自然環境との調和において重要な視点は「付加機能と経済性の調和」だと述べられ、あくまでも本来機能が主であり、それに環境への付加機能を如何に加えるか、工学的視点と経済的視点の両面から検討すべきとお話しいただいた。

次に、「土木技術に対する理不尽な中傷への反論」として、氏が関わってきた海のコンクリート構造物の悪役説や天然信仰への対応について、確固とした技術的裏付けに基づく検証によって成し得た事例に



写真-2 講演中の大橋正臣氏



写真-3 講演中の谷野賢二氏

について紹介されました。また、近況の報告として、現地調査や室内実験を補間するための数値シミュレーションへの取り組みについて、ご紹介頂いた。

最後に氏から、「着想の瞬間の大切さ」「発想の転換の必要性」「失敗に学ぶ重要性」について、お話しいただき、「更なる水産工学の発展を期待する」として、ご講演を閉められました。

4. おわりに

両講演ともに参加者から熱心な質疑を頂いた。最後にお忙しい中、快くご講演をお引き受け頂いた両講師ならびに関係各位に心からお礼申し上げます。



写真-1 特別講演会の様子